

《学校近況報告》

新型コロナ禍により学校生活は大きな影響を受けましたが、生徒はそれぞれの活動に精一杯取り組んでいます。



【笠取峠のアカマツ並木 再生の取り組み】

2年生は、地域1の授業でアカマツを種から育て移植を目指す取り組みを始めました。松枯れ被害により減少傾向にある笠取峠のアカマツ並木を後世に残すため、地元の文化、歴史を学びながら、町ぐるみの保存管理に新たな一歩を高校生の活動として、刻んでいます。これらの活動は新聞にも取り上げられ、蓼科生の取り組みが評価されると同時に、今後継続した取り組みを計画・実践していくなど、さらなる活躍が期待されます。



活躍する

蓼科高生

【生徒会あいさつ運動】

生徒会長の公約である、あいさつ運動が7月に行われました。生徒会の生徒が主体となり、毎朝昇降口で元気よくあいさつをすることで学校全体が活気に溢れました。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で活動が制限されました。生徒会執行部でしたが、学校再開後はポプラ祭などの様々な行事に向けて日々邁進しています。

【新型コロナ禍の中でのポプラ祭】

今年のポプラ祭は新型コロナウイルス感染症の影響で一般公開が中止になるなど、様々な制約の中で行われました。しかし、コロナ禍で出来ないことが多い逆境の今だからこそ、蓼科ケープレビューン様のご協力で実現したライブビューイングや、キッチンカーAngel Cafe 様とフードデザインの生徒たちによるクレープ販売など、地元企業の皆様の支えにより、これまでになかった企画を行うことができました。

【野球部】

県高野連が主催する二〇二〇年度夏季高校野球県大会において、7月18日に蓼科・坂城連合と小諸高校の試合が行われました。9回裏には3点差を追いかける蓼科・坂城連合が粘り強くつなぎ、同点に追いつき、あと一球で逆転サヨナラかと思われた展開で、白熱した試合となりました。延長10回の表に追い越され、試合には敗れたものの、試合後の生徒たちは晴れやかな顔でスタンドを見上げていました。

